

小嶋亜創 茶碗一〇〇展

2014. 9. 13 sat - 23 tue



料金後納
ゆうメール

小嶋亜創 茶碗 100 展

2014年9月13日(土)～23日(火) 会期中無休
営業時間 11:00～18:00 作家在廊日 9月13日(土)

小嶋亜創さんの今回のテーマ「茶碗100」。ご飯茶碗ではなく、抹茶用。いわゆる茶の湯を意図した「茶碗」を文字通り100点並べます。陶芸家にとって茶碗は特別なもの。桃山時代に極まった茶の湯の主役となる道具であり、日本独自の美意識を代表するものです。中国や韓国から渡来したものや、意図的に作られた国産のものなど、歴史と共に名品の数々が受け継がれてきました。それは現代の陶芸家にとっても特別な意識で臨む唯一の器です。小嶋亜創さんは、これをどう捉えたのか。茶碗の歴史や功績は大いに尊敬していますが、その特殊性ゆえに背負ってしまった権威や閉鎖性に不自由さを感じています。もっと自由でありたい。いち陶芸家として自分の眼で美しさを求めてみたい。そういう意識が今回の「茶碗」に繋がっています。昨年のテーマが「雑器」、そして今年は「茶碗」。小嶋さんにとって、どちらも同列の意識にある存在なのです。かつての茶人が、暮らしの「雑器」から優れた「茶碗」を見出したように、今の人々にも自分の基準で「茶碗」を見立てて欲しいのです。小嶋さんの茶碗には桐箱は付きません。いずれも一律3000円。小嶋さんらしい設定です。「自分にとって茶碗はこういうもの」という飄々とした顔が浮かぶのです。誠にうつわ屋泣かせではありますが。

店主敬白

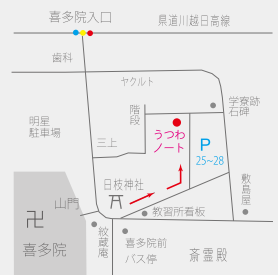
- 1978年 長野県上田市で育つ
- 1997年 百姓を目指し全国の農家に居候しながら旅をする
- 2000年 独学で作陶を始める
- 2004年 長野県大町市に移住し半農半陶の生活を営む
- 2014年 現在、同地にて百姓と陶芸の日々を過ごす

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6

TEL 049-298-8715

MAIL utsuwanote@gmail.com



灰釉茶碗



鉄刷毛目茶碗



呉須草文茶碗



刷毛目蕪文茶碗



鉄絵文茶碗



刷毛目唐草文茶碗



赤絵緑彩茶碗



粉引茶碗